

3. 各課報告

3.1. 図書館庶務課

3.1.1. 除籍業務

2005 年度下半期(2006 年 3 月)に起案した、5,785 冊の除籍の決済がおりなかったことから、2006 年度に予定した除籍業務が全面的に滞ってしまった。5,785 冊のうち中央図書館分の 3,280 冊が、長年にわたる研究室貸出等によって生じた紛失本であり、管理上の問題が問われたものである。その後、退職教員への照会などを含めた再調査を行い、年度末に再度起案し、処理を完了させた。

3.1.2. 田中惣五郎・同陽児氏旧蔵書の受贈

元本学文学部教授で現代史、明治維新史研究で高名な田中惣五郎氏(1894-1961)と、同氏の長男で元東洋大学教授、ロシア史の陽児氏(1926-2006)の旧蔵書を受贈した。惣五郎氏は日本近現代史関係の和書約 1,000 冊と自筆原稿、片山潜からの書簡、明大関係資料多数で、図書は図書館、文書類は大学史資料センターで収蔵することにした。陽児氏は、ロシア史関係のロシア語図書 2,000 冊、和書 1,000 冊で、ロシア語図書の多くは図書館で所蔵しないものである。2007 年度前期に整理課で重複調査を行い、未所蔵図書を受入れ、重複図書は海外図書館への寄贈など、有効活用を図ることになっている。

3.2. 整理課

3.2.1. 整理業務

2006 年度の登録数は 3 月 20 日現在和書 38,436(2005 年度 36,824)、洋書 9,529(2005 年度 11,181)となっている。近年洋書の購入冊数が減少傾向にあるが、2006 年度も昨年度に比べ約 2,500 減少している。それに伴ない常駐している洋書担当の業務委託者人数が 1 名減り、2 名体制で洋書の新刊書整理の業務委託を行うこととなった。それに対して、和書の業務委託については、2005 年度は図書の入荷数に応じて人数調整を行ったが、博物館資料の遡及業務も 2005 年度から引き続き行っており 2006 年度は人数の変更は無かった。

3.2.2. データ整備

データ整備業務を明大サポートに業務委託を開始して今年度で 4 年目に入った。開始当初の処理方法を大幅に見直し、5ヶ年計画の予定の最終年である 2008 年 3 月には、処理対象としているものを終了できる見通しがたった。また、スタートが遅れていた中国書のデータ整備も、2007 年 2 月から業務委託でデータ整備を開始した。また「百部叢書」については、書誌が未作成のため検索できないなどさまざまな問題点があり、以前から再整理の必要性が生じていたもので、総冊数 7,779 冊のうち再整理の必要性がある 5,044 冊のデータ整備を 2005 年 12 月 9 日に着手して、2007 年 1 月 18 日に終了した。

3.2.3. 遡及業務

図書館は対外的には遡及業務は終了したと公言しているが、当時は遡及対象を現行の請求記号を持つ資料のみを対象としていた。確かにそれは予算の獲得により JPMARC、UTLAS 等を利用することにより遡及を終えることができた。しかし図書館には ABC 分類図書、旧大学院図書など現行の請求記号で整理される以前に登録、整理された多くの資料があり、それについては随時予算化して外注処理等で遡及を行ってきたが生田保存庫にまだ未遡及の資料が多く存在していた。整理課としてはこれらの未遡及資料の処理については若干長期的に考えていたが、図書原簿のデジタル化を 2006 年度に着手したことで全体の遡及業務の処理をここ 1~2 年で終

えざるを得なくなった。図書原簿に記載されていて、除籍されていないにも係わらず所蔵データのないものについて、実際の有無の確定を行うための追跡調査を行う必要性が生じたからである。未遡及資料として把握していた主なるブロックは以下の4点である。

- (1) 旧大学院(二段ラベル、法・商・政・文)
- (2) 本生図書(約4連)
- (3) 「別」図書(和書約6.5連、洋書約4.5連)
- (4) 旧韓国文庫(約2連)

以上のうち(1)については保存庫から送られたものの重複調査を行い、重複資料については除籍、重複しないものは遡及することとし、作業を継続して行っている。

(2)については2006年度内に処理を終了した。(3)、(4)については、保存庫資料蔵点作業終了後に着手の予定となっている。

3.2.4. 博物館資料の遡及業務

図書館では2005年度から博物館資料の遡及入力を開始した。初年度は約2,000冊の遡及を行い、長いスパンで遡及を完結しようと計画していた。監査でこの遡及業務を長期的な期間でなく短年度で処理せよとの指摘があり、2007年度には大型予算を投入して遡及入力を行う計画になっている。

3.3. 総合サービス課

中央図書館が開館して6年が過ぎた。2006年度開館日数は昨年度と同様334日であった。

3.3.1. 貴重書庫改修計画について

現貴重書庫と隣接する現図書館システム室(マシンルーム)をあわせて貴重書庫とする改修計画は、政策経費として調査費が計上された。管財部と協議し、新貴重書庫のレイアウトを検討し、2007年夏の改修に向けた準備を進めている。

3.3.2. レファレンスカウンターで図書返却の受付開始

4月に返却ポストの設置時間を変更し、開館時間中(貸出カウンターがクローズ)は返却ポストを撤去した。その後図書の返却が不便であるというクレームが出され、レファレンスカウンターで図書返却の受付を開始した。

3.3.3. 大学院生に対する図書館ガイダンスの実施

①大学院新入留学生向け図書館ガイダンス(4月11日、1回、11名)、②大学院授業での図書館情報検索指導(ガバナンス研究科・15名、政治経済学研究科・20名)を実施した。

3.3.4. 明治大学図書館所蔵「蘆田文庫古地図」電子展示

昨年に引き続き国立情報学研究所主催のオープンハウスで6月8・9日に「明治大学図書館所蔵蘆田文庫古地図」電子展示を開催した。パソコンを用いて古地図の高精細画像データのデモと説明を行った。

3.3.5. ギャラリー展示

中央図書館ギャラリーの展示は、「新収貴重書展」(4月1日～5月30日)、「図書の文化史」(7月10日～9月28日)、「考古学者杉原壮介展」(10月11日～11月15日)、「唐十郎展」(11月21日～1月22日)、「アサヒグラフに見る戦後の学生と世相」(1月30日～3月11日)を開催し、好評を博した。

なお、展示としては、リバティアカデミー講座「著名な大学所蔵(蒐集文書)」(講師福田栄次郎名誉教授)に「青蓮院文書」7点を展示、公開した。

3.3.6. 多目的ホールの利用

通常は閲覧室として利用されている多目的ホールは、①明治大学古代学研究所主催講演会(10月21日)、②図書館の蔵書とサービスを語る会例会(6月2日・12月1日)、③山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム研修会(12月13日)が開催された。その他に入学試験関連の業務などにも利用された。

3.3.7. 地下3階書庫内カビ付着図書処置

5月の連休前後に書庫内が暑く、地下3階外気導入ダンパー吹き出し口周辺の図書にカビの付着を発見する。クロス装、ビニールクロス装の図書の背、小口にカビが広がり、管財部と対応策を協議した。カビの調査結果報告を受けてから清掃作業を行うが、大量のため共立管財により除去作業を行い、7月中旬に終了した。

また、貴重書庫を含む保存環境の調査を東京文化財研究所に調査を依頼し、原因とその対応策についての助言を受けた。書庫は利用者が出入りする場所であり、今後このようなことを起こさないためにも定期的な環境調査(温湿度の管理)や清掃が必要である。

3.3.8. 環境展の参加

リバティタワー1階で開催された環境展(12月11日～15日)において、図書館が所蔵する環境問題に関する図書・雑誌のリストを配布し、今年度は本学教員が執筆した環境関係図書(29冊)を図書館入り口に展示した。

このことに触発された学生から「起業プランニング論」の講義での推薦図書やブログの紹介をしたい旨の提案があり、1月に図書館入り口周辺に展示した。

3.3.9. 第3書庫の運用

形態分類の図書など閉架書庫としての運用を開始した。

3.3.10. 紛失図書の調査

2005年度下半期除籍申請図書のうち中央図書館紛失図書3,271冊について、悉皆調査を行った。貸出者を調べ、督促を行った。また、生田保存書庫、博物館などでの所蔵調査の結果、820冊が発見・返却された。

3.4. 和泉図書課

和泉図書館は、「利用しやすい図書館」を目指し、資料の充実、資料配架、施設の整備等の見直しを行っている。

2005年度に和泉委員会と図書館による新和泉建設連絡協議会を設置し、学内諸機関に働きかけてきたが、2006年度に至り、新図書館建設の基金について2007年から4ヵ年積み立てが決定し、新図書館建設への予算的裏づけが得られた。新図書館の建設に期待したい。

3.4.1. 利用者教育の充実

カリキュラムの改革により、1・2年次のゼミ・演習が増加し、これに伴い図書館で開催しているゼミ・ツアーの参加者も激増した。前年の114回、2,048名、に比し、本年は130回、2,416名の参加があった。館内の案内と参考室でのコンピュータ、プロジェクター、書画提示装置を用いた説明を実施した。

3.4.2. 館内の整備

開架閲覧室の図書が満杯のため書庫への配置替えを行い、開架図書の整備を実施した。利用者用カラープリンターを設置した。また、館内掲示板の設置、トイレドアの改修、閲覧席の配置

替え、貸出、レファレンス、雑誌の各カウンターの模様替え、等々の整備を行った。

3.4.3. 著者と語る

第8回図書館講演会「著者と語る」を、11月4日、和泉図書館第1開架閲覧室において開催した。今回は、2005年6月10日逝去された作家・倉橋由美子氏(明治大学文学部卒業、明治大学特別功労賞受賞)にちなみ、古屋美登里、豊崎由美氏により「対談 倉橋由美子大人の小説の魅力」と題した対談を行った。学内・学外から85名の参加があり盛会であった。

3.4.4. 日本近代文学文庫の展示

2005年度に購入した、同文庫の図書のうち、特に貴重なものについて中央図書館ギャラリーと、和泉図書館において展示した。

「対談・倉橋由美子大人の小説の魅力」の開催に合わせて、「倉橋由美子著作展」を行なった。

3.4.5. 杉並区図書館ネットワーク

杉並区立図書館、明治大学、女子美術大学、高千穂大学、東京立正短期大学、立教女学院短期大学の参加による杉並区図書館ネットワークにおいて、杉並区民への解放(閲覧・貸出)、大学図書館間の解放(閲覧・貸出)を実施している。また、ネットワークの企画事業として「奥多摩の山歩きー今と昔ー」(講師:住谷雄幸元英和短期大学教授、企画:明治大学・東京立正短期大学)を10月7日、杉並区立中央図書館で開催した。

3.5. 生田図書課

「地域に開かれた図書館」をモットーに、有形無形のバリアフリーを実践してきた1年であった。外的には多摩区との連携、内的には入庫フリーである。しかしながら、バリアフリーの核となる、車椅子での館内自由往来のための施設改善が図れず、今後の課題となっている。

3.5.1. 図書館活用法

学部間共通総合講座「図書館活用法」を通して、学部生の図書館利用の一助を担っているが、そのほかに個々の授業でも受け付けている。2006年度は、機械工学科から要請があり、授業初日に、職員2名を派遣した。さらに、PRに努めたい。

3.5.2. 学習用図書の選書

図書館が行う選書は、これまで各担当が新刊情報の冊子目録と現物を見て選書していたが、2006年度からは、委員会方式に切り替え、定期的に意見を交わしながら選書することとした。図書予算や、カリキュラム内容、新設される学科の内容を確認しながら、学習用として必要な資料が漏れないよう注意を払っている。

教員による学習用図書選書委員会は、理工学部が年2回の委員会を開催している。2名の図書委員と10名の学科選書委員にお願いしている。この委員会では、選書を外れた事柄も議論されることがあり、学科選書委員が自分の授業で実施した図書館利用アンケートを、他の学科でも実施し、理工学部としての利用者の声を聞くことができたのは有意義であった。

3.5.3. 開架書架の整備

書庫の狭隘化により、毎年増えた分だけ書架からはみ出してしまう現象が起きている。そのため、毎年計画的に除籍作業を行っている。

それと同時に、利用者にとってわかりやすい書架配置にも心がけている。2006年度は、第4開架閲覧室の0から3門の資料を第1開架閲覧室の4門の前に移し、6門以降を第2開架閲覧

覧室と雑誌コーナーに移し、分類番号順に配架するようにした。今まで、第4開架閲覧室とB1書庫とに分かれていた大型本(099)はB1書庫に集中配架し、第4開架閲覧室を製本雑誌書架とした。今回の書架移動で、2FからB2Fまで資料が分類番号順に並ぶようになった。

3.5.4. シラバス本

前年度のシラバスで指定された図書が、翌年度にシラバスからはずれた場合は、当該図書を書庫にまとめて配架されていたが、2006年度からは、同一本の開架図書と同じ請求番号に装備しなおして配架し、利用者の利便性を図った。

3.5.5. 入庫フリー

書庫のフリー入庫を実現させるため、書庫本にタトル・テープ挿入、バーコード・ラベル貼付の作業を、政策経費(業務委託費)によって行った。その後、非常灯、非常扉等の安全確認と、不具合を修理して、10月2日から入庫フリーとした。入庫受付業務を廃止したことから心配されたセキュリティの問題については、関係部署の協力を得て警備員による館内巡回を実施している。入庫者は以前より増え、特に試験期には書庫内閲覧席の利用が多くなった。

3.5.6. 海外搬送事業について

私立大学図書館協会の海外搬送事業に申請し、図書172冊を、ラオス国立大学経済経営学部図書館に寄贈した。

3.5.7. あげます本

これまでも図書館で不要となり除籍手続きを完了した本は、利用者に提供するため「あげます本」として自由に持ち帰れるようにしてきた。今年は、職員教養文庫の改装の関係で多くの不要本が発生したため図書館で処分を依頼され、「あげます本」として、コピー室に配架した。小説類が多いため生田図書館では利用が少ないものもあり、中央図書館、和泉図書館の協力を仰ぎ、9月いっぱい処理することができた。

3.5.8. 保存書庫資料

(1) 佐藤正彰旧蔵書

元文学部教授・佐藤正彰旧蔵書のうち、和泉図書館の日本近代文庫に収蔵された図書以外の一般書は、3館書庫および保存書庫に分散配架されていたが、保存に考慮し、保存書庫に集中配架した。

(2) その他の寄贈図書

毛利家旧蔵書、黒川家旧蔵書、蘆田文庫の一部が保存書庫に移設されていたが、中央図書館で集中管理することになり抽出した。また、鶴沢聡明旧蔵書の一部、保存書庫に移設されている神宮文庫、中村光夫旧蔵書、中島飛行場からの寄贈図書についても、保管を厳重にするために、寄贈者名をメモしたスリッパを図書に挟むことにした。

(3) 蔵書点検

資産データベース構築および除籍手続き資料の再点検のため、保存書庫資料の蔵書点検を業務委託で行った。点検対象総数は260,483冊、内訳はデータあり(整理済図書)253,643冊(登録)、データなし(未整理・未登録図書)4,971冊、調査中・除籍済図書1,869冊(登録)であった。

3.5.9. 利用環境の整備

(1) オープン・パソコン周辺への照明設置

2005年度に、玄関ホールにオープンパソコンを設置したが、周囲が暗く、利用しづらいことから照明を設置した。

(2) 受動喫煙防止対策

図書館正面入り口脇に灰皿を設置しているため、人が集まり騒々しいこと、煙が入り口周辺ま

で入ること等で苦情が寄せられたため、灰皿を移すと同時に注意を呼びかける掲示をした。

(3) 書架天板の清掃

書架天板の汚れが目立つようになったため、担当部署に特別清掃を依頼し、年末に実施した。また、窓ガラスの清掃も年度末に行った。

(4) 警備員の図書館内巡回

利用者の置き引き被害が頻発したことから、警備員による定期巡回を開始した。

(5) 1F 非常口となっている扉について

「5 入庫フリー」に関連して、各フロアの避難誘導灯、非常口等の点検を行った。そのなかで、非常口となっている 1F 扉が施錠状態となっていることからサムターンに変更した。なお、発報装置の設置を次年度予算に計上した。

3.5.10. 修士論文

生田図書館では、古くから理工学研究科及び農学研究科より、修士論文の保管を依頼されて、B2 書庫に収蔵し利用に供してきた。しかしながら、修士論文は未公刊資料であるため、閲覧等については、本来著作者の許諾を必要とするものであり、この度、著作権法の観点から閲覧禁止処置をおこなった。今後の取扱いについては、両学部と協議することにした。

3.5.11. 入館システムの設置

入館システムを年度末に設置した。これにより、入館管理が容易になり、詳細な利用統計をとることが可能になった。

